

1 JR成田線の複線化促進について

道路などの交通網の整備は、豊かな生活の実現と国土の均衡ある発展にとって基本的かつ重要な事業であり、その整備は、地方都市にとって地域住民の最も熱望するところである。

JR成田線の複線化は、香取地域の発展に大きく寄与するものであることから早期着工を要望する。

2 いすみ鉄道再生化に向けた更なる施策支援について

「観光立県ちば」を目指す千葉県において、いすみ鉄道は小湊鉄道と共に房総を横断する唯一の鉄道であり、沿線には原風景が残る自然や歴史・文化等豊かな観光資源に恵まれており、沿線住民の重要な公共交通機関となっている。特に近年では、菜の花がいすみ鉄道の代名詞となり旅行会社のツアー化が図られ、鉄道利用増進に結びついている。又、国の地域公共交通活性化・再生総合事業への取り組みも進めており、再生に向け地域との連携を図っているところである。

については、均衡ある県土の発展と交通弱者となる子供達や高齢者の交通手段の安定を保つため、今後とも継続的な施策支援等を要望する。

3 国民健康保険医療給付費の国・県負担金の拡充について

国民健康保険制度は、構造的な要因により依然として厳しい状況にある為、国民健康保険制度の長期安定的な確保を図るため、下記事項について早急に措置を講じるよう国への働きかけを強く要望する。

記

- (1) 国民健康保険の長期安定的な運営の確保を図る観点から、各種医療保険制度の負担と給付の公平化を推進し、財政基盤の強化を図るため、国を保険者とする医療保険制度への一本化の早期実現及びそれまでの間、国民健康保険財政の安定を図るための財政措置の充実強化
- (2) 高額医療費共同事業、保険基盤安定制度及び財政安定化支援事業が平成21年度に期限が切れます。よって、これに変わる財政措置を要望すると共に、併せて市町村国保に義務付けられた健診、保健指導に係る経費等にも十分な財政措置

4 児童医療の助成拡大について

少子化の進展する中で、時代を担う子供達の健康や医療に関する充実は将来にむかって大変重要なことであり、乳幼児医療の助成制度においては昨年12月より就学前児童までに拡大され、子育て環境が充実されてきたところである。

しかしながら、世界的な経済危機により家庭の経済状況は厳しい状況にあるが、子供達を保護・育成していく事は義務であり、なかでも安全と健康に関する事は急務といわざるを得ない。少なくとも医療制度においては、就学前に留まらず義務教育を修了するまで助成枠を拡大し、子供達の健やかな成長を図る必要がある。

については、義務教育修了までの医療費の助成を要望する。

5 既設園芸施設の更新改善支援について

千葉県は農業産出額で全国第2位を奪還し、野菜生産県として数多くの品目が全国上位に位置し、中でも施設園芸はその中心的な役割を果たしている。

現在の既設園芸施設は、昭和40年代からの農業構造改善事業等を導入し建設された施設が多いため、老朽化が進み更新時期を向かえている。

しかし、昨今の農業資材の高騰や農産物の価格低迷等により新たな投資をするには大変厳しい状況から施設の規模縮小や廃業せざるを得ない農家が急増している。このままでは農業生産基盤は崩れ、「園芸王国ちば」を維持することは困難になりつつある。

については、施設園芸の実情を鑑み、既存産地施設の更新改善に対する支援措置を早急に講じられるよう要望する。

6 主要地方道鎌ヶ谷本埜線及び一般県道八千代宗像線道路改良事業の促進について

主要地方道鎌ヶ谷本埜線は、平成6年度から事業実施されているが、千葉ニュータウン地域と成田空港を結ぶ広域道路として重要な幹線であるので、一層の事業促進により早期完成を要望する。

また、一般県道八千代宗像線は、千葉ニュータウン東部地域と国道16号線を連絡する重要な道路であるが、幅員狭小、急カーブ、急勾配区間が点在しており、地域交通の安全確保を図るためにも平成6年度から事業実施されているバイパス事業の一層の促進により早期完成を要望する。

7 東関東自動車道（仮称）酒々井インターチェンジ周辺地域における道路ネットワーク形成と周辺国道道の整備促進について

現在、（仮称）酒々井インターチェンジの開設に向けて、事業が進められているが、周辺の県道は、インターアクセス道路として、また、近隣市町村を結ぶ重要な路線であることから、更なる交通量の増加が見込まれる。

については、成田国際空港南部周辺地域における住民の道路交通の利便性向上と国際空港機能を活かした地域産業の発展及び地域経済の活性化に寄与する下記事項の早期実施を要望する。

記

- (1)（仮称）酒々井インターチェンジ周辺地域における道路ネットワークの早期の計画立案と整備の実施
- (2) 主要地方道富里酒々井線、主要地方道成東酒々井線及び一般県道宗吾酒々井線の拡幅、歩道整備等の促進

8 広域的幹線道路網の整備について

北総東部地域における広域的幹線道路網の整備について、下記のとおり要望する。

記

- (1) 干潟工業団地以東、銚子方面への基幹道路として、また、産業経済の発展等地域活性化のため、主要地方道多古笹本線バイパスの早期完成
- (2) 東総有料道路終点から香取市の南部（旧山田町中央部）を縦断して一般県道小見川海上線に至る路線は現在市道であるが、広域的な道路網の整備という観点から、同路線の当該路線の県道認定及び早期整備

9 国道356号の拡幅改良工事及び主要地方道成田小見川鹿島港線の整備促進について

千葉県北総地域においては、道路等交通網の整備が遅れ、発展する千葉県の中にあって、人口の減少など過疎化の傾向がみられる。

これから過疎傾向の脱却を図り県内の均衡ある発展と北総地域の活性化には、国道356号及び主要地方道成田小見川鹿島港線は欠かせない重要な道路である。

国道356号の拡幅改良については、県が鋭意努力されているところではあるが、香取市東部の拡幅改良について早急に進められるよう要望する。

併せて、主要地方道成田小見川鹿島港線は、成田国際空港と鹿島港を結ぶ重要な道路であり、成田国際空港の平行滑走路共用開始後、交通量も増大し、朝夕には渋滞を引き起こしている現状にあるので、更なる整備促進を要望する。

10 首都圏中央連絡自動車道の事業促進について

首都圏中央連絡自動車道は、千葉県のほぼ中央を南北に通り、成田国際空港・幕張新都心・かずさアカデミアパークを基軸とした、千葉新産業三角構想など各種プロジェクトの波及効果に欠くことのできない広域的ネットワーク道路である。

この首都圏中央連絡自動車道の整備により、北総地域や成田国際空港周辺地域では、アクセス機能が向上し国際物流機能の集積や先端技術産業を中心とした臨空工業団地等の整備計画が進展し、もって地域活性化の原動力となる。

については、下記事項の実現について、国への働きかけを要望する。

記

- (1) 茨城県境(神崎町)から(仮称)大栄ジャンクション(旧大栄町)までの10.7km区間の早期の完成
- (2) (仮称)大栄ジャンクションから県道成田松尾線(横芝光町・旧松尾町)までの18km区間の早期事業化

1 1 首都圏中央連絡自動車道 スマートインターチェンジの設置について

首都圏中央連絡自動車道は、「ちば新時代」をつくる基盤整備としてさまざまな重要な役割を果たすものであり、東京湾アクアラインとのつながり、快適な観光やレジャーはもちろん、スムーズな物流を実現し、県内のあらゆる産業への波及効果が期待できるものと考えられる。

大網白里町では、地域の活性化や周辺道路の交通円滑化、並びに緊急時における医療施設への搬送など、住民の利便性を図る観点から主要地方道千葉大網線への追加インターチェンジの設置を要望してきたが、現状では設置が困難な状況であり、実現のためにスマートインターチェンジの導入が必要不可欠である。

また、首都圏中央連絡自動車道の整備については、慢性的な交通渋滞の緩和はもとより、産業や観光の振興への好影響など、その果たすべき役割は大きく、その整備効果を地域が受けとめることができる本町へのスマートインターチェンジの設置は、まちづくりの戦略上においても大変に重要な施策である。

については、本町へのスマートインターチェンジの設置に向けた特段の配慮を要望する。

1 2 主要地方道飯岡一宮線バイパスの建設促進について

主要地方道飯岡一宮線は、県が提唱する「観光立県千葉」推進の一翼を担う道路として、九十九里沿岸の産業はもとより、千葉県東部地域の観光レクリエーションと、成田方面への交通アクセスの向上に大きく寄与する重要な路線である。

特に片貝地区の（仮称）新九十九里大橋を始め、小松浜地区に架かる橋梁整備および屋形地区の道路整備により、路線に連続性を持たせることが早期に効果を発現するうえで重要と考えられる。

については、県財政が厳しい状況であることは理解するが、主要地方道飯岡一宮線バイパス全線の早期完成について強く要望する。

1 3 栗山川改修の促進について

二級河川栗山川は、近年の流域開発等により周辺地域の保水機能が低下したことや川幅の狭い区間があることから、度々住宅地の浸水や道路の冠水等の被害を受けている。

平成3年度から住宅市街地基盤整備事業が導入され、市街地の狭窄区間もほぼ解消されてきたが、平成19年度で当該事業は終了した。

については、引き続き未改修区間の更なる事業促進を要望する。

また、河口から約4kmについては、河川の拡幅が完了しているが、河口から約1.5kmにある木戸堰は未改修となっていることから、木戸堰の改築に向けての事業化の推進を要望する。

1.4 地域高規格道路・茂原一宮道路（長生グリーン・ライン）の早期事業化について

長生地域は、房総丘陵と九十九里海岸の恵まれた自然のもと、農林水産業や内陸型工業、観光産業などの盛んな地域である。

地域高規格道路・茂原一宮道路(長生グリーンライン)を、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)や東京湾横断道路と一体的に整備を行い、広域的な道路交通ネットワークの形成を図ることは、長生地域の発展と災害時における緊急対応道路として必要不可欠である。

当該道路のうち、茂原市・長南町区間は、既に長南町側より着工し、更なる用地取得が図られており、圏央道茂原・木更津間の進捗に合わせ、事業が着実に進展している。

については、茂原市・一宮町区間約4kmを整備区間として早期に指定すると共に全線開通に向けて、さらなる事業の推進を強く要望する。

1 5 主要地方道茂原白子線バイパスの建設促進について

主要地方道茂原白子線は、茂原市本納地先から白子町海岸部までを接続する郡内有数の東西道路軸と位置付けられており、特に夏季を中心とした観光シーズンにおいては、首都圏からの来遊者の車両が非常に多く、しばしば交通渋滞や交通事故を引き起こしている。

しかしながら本路線は、既に住宅街を形成しているため、線形改善や幅員拡張は極めて困難な状況にある。

については、茂原市と白子町の東西道路軸の強化、房総リゾート地域整備構想及び長生山武地方拠点都市地域の支援、更には首都圏中央連絡自動車道との連携を促進するため、茂原・白子バイパスの早期建設が実現されるよう要望する。

16 一般県道日吉誉田停車場線（一部 長柄大多喜線）の道路整備について

一般県道日吉誉田停車場線は、現在事業が推進されている首都圏中央連絡自動車道の茂原長南インターと茂原北インター間に沿って長南町、長柄町、茂原市を通過し、国道409号、主要地方道市原茂原線、主要地方道千葉茂原線、主要地方道五井本納線を結ぶ主要な路線であり、将来、圏央道の側道的役割を担う県道である。

現在、茂原長南インターから国道409号へのアクセス工事が行われているが、これを受け北上する一般県道長柄大多喜線及び一般県道日吉誉田停車場線については、長柄町桜谷・国府里地先等一部では整備に着手しているが、全線にわたっては、いまだ未改良となっており、近年千葉外房有料道路等周辺道路網の整備に伴う観光目的の車両や物流関連の大型車両の交通量が著しく増加しており非常に危険な状況にある。

については、本路線全線の事業促進と、早期完成を強く要望する。

17 国道409号及び一般県道長柄大多喜線の歩道整備について

国道409号(長南町笠森・長南町千田区間)及び一般県道長柄大多喜線(長柄町鶉谷(主要地方道市原茂原線分岐点)・長南町千田区間)については、規格改良済であるが、歩道については未整備区間が点在している。

朝夕の通勤時間帯は交通量が多く、児童生徒の通学はもとより、昼夜にわたり歩行者及び自転車利用者は危険が伴い、特に国道409号の長南町深沢地先においては、昨年の11月に交差点での死亡事故、今年3月には同地先のトンネル内での死亡事故が立て続けに発生した。

今後、長生グリーンラインや圏央道の整備に伴い、更なる交通量の増加が予想される。

については、千田交差点については、長生グリーンラインの工事により歩道が設置されるが、尊い命を交通事故から守るため、国道409号千田交差点から笠森区間を、また一般県道長柄大多喜線の長柄町鶉谷から千田交差点区間の歩道整備を実施されるよう要望する。